

# ごあいさつ



皆さまには、平素より足利小山信用金庫に格別のご支援、ご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

当金庫は大正14年の創立以来、地域とともに歩んでまいりましたが、おかげさまで、昨年10月に創立90周年を迎えることができました。これもひとえに地域の皆さまの永年にわたるご愛顧の賜物と深く感謝申し上げます。

本年もディスクロージャー誌「足利小山信用金庫の現況2016」を作成いたしましたので、ぜひご高覧いただき当金庫へのご理解を深めていただければ幸甚でございます。

さて、当期の日本経済は、政府によるデフレ脱却・経済再生を目指す諸施策の進展により、上期においては、雇用情勢の改善や堅調な企業業績を背景に持ち直しの動きとなりましたが、下期においては、中国をはじめとする新興国経済の下振れ懸念等から円高・株安が進展し、景気は弱含みの推移となりました。

そうした中、1月にはさらなる景気刺激策として、日本初となる日本銀行による「マイナス金利」の導入といった追加金融緩和措置が実施されております。

一方、当金庫を取り巻く地域経済環境は、従来の少子高齢化や人口減少といった構造的な問題が引き続き進展しており、中小企業においては、景況感は上昇に転じているものの、収益状況においては、いまだ回復途上といった状況であります。

このような情勢の下、当金庫は、「安定した収益基盤の構築」と「お客さまに感動を与えられる金融機関」を目指し、①支援力・営業基盤の強化により、収益力の向上に繋げる、②内部管理態勢の強化、③組織力・人材力の強化、④つなぐ力・総合力の発揮、⑤環境問題に関する行動の5つを経営課題に掲げ、期初より意欲的に取り組んでまいりました。

その結果、当期の収益状況は、資金需要の低迷・金融機関間の競合激化、および市場金利のさらなる低下等により経営環境は厳しさを増しておりますが、資金運用力の強化および経営の効率化ならびに経費の節減に引き続き努めました結果、当期純利益は1億6千1百万円となりました。

平成28年度は、「トップライン(業務粗利益)の収益拡大」を第一の経営課題に掲げ、経営体力の充実に取り組んでいくことを基本方針として、創業以来の「相互扶助精神」に基づく経営を、「地域の発展なくして金庫の存在意義なし」との考えで、取り組んでまいり所存でございます。

皆さまには、今後とも一層のご支援、ご愛顧を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成28年6月

理事長

富田隆